



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年1月29日
上場取引所 東

上場会社名 四国化成工業株式会社
コード番号 4099 URL <http://www.shikoku.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 兼 C. E. O. (氏名) 田中 直人
問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経理・情報システム部長 (氏名) 片山 和彦 (TEL) 0877-22-4111
四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	38,160	△2.0	5,564	△6.0	5,760	△9.0	4,027	△7.1
2019年3月期第3四半期	38,919	3.5	5,917	△4.1	6,331	△4.0	4,336	△3.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 4,680百万円(205.3%) 2019年3月期第3四半期 1,532百万円(△76.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	69.27	—
2019年3月期第3四半期	74.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	91,618	71,916	77.6
2019年3月期	92,191	70,370	75.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 71,091百万円 2019年3月期 69,582百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
2020年3月期	—	12.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,500	1.3	8,200	1.9	8,500	0.8	5,800	7.5	99.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期3Q	58,948,063株	2019年3月期	58,948,063株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,899,965株	2019年3月期	527,764株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期3Q	58,145,828株	2019年3月期3Q	58,420,704株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げや、海外経済の低迷から製造業の企業収益が頭打ちとなるなど、消費・投資を巡る環境は悪化しており、先行き不透明感が強まっています。

一方、世界経済は、米中貿易摩擦に伴う関税の引き上げ、東アジアや中東における地政学的緊張の高まり等から、全世界的に国際貿易や製造業の活動が急速に悪化しています。エレクトロニクス産業は5Gの本格普及を前にシリコンサイクルが底打ちしつつありますが、自動車産業は貿易摩擦の影響に加え欧州や中国の新排ガス規制等により低迷が長期化するなど、予断を許さない状況です。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年12月31日）の当社グループの売上高は381億60百万円（前年同期比2.0%の減収）、営業利益は55億64百万円（前年同期比6.0%の減益）、経常利益は57億60百万円（前年同期比9.0%の減益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は40億27百万円（前年同期比7.1%の減益）と、いずれも前年を下回りました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①化学品事業

無機化成品は、ラジアルタイヤ向け原料である不溶性硫黄は、国内市場は堅調であったものの、海外市場が低迷し低調に推移しました。レーヨン・セロハン向けの二酸化炭素、浴用剤・合成洗剤向けの無水芒硝も、低調に推移しました。

有機化成品は、殺菌消毒剤シアヌル酸誘導品は、国内、米国市場ともに底固く推移しているものの、前期好調の反動で前年を下回りました。

ファインケミカルは、全般に米中貿易摩擦を主因とする電子部品関連の市況停滞の影響を受け、プリント配線板向けの水溶性防錆剤タフエースは低調に推移しました。エポキシ樹脂硬化剤（イミダゾール類）を中心とする機能材料も、市況停滞の影響を受けましたが、新規開発品が拡大し、横ばいで推移しました。

この結果、化学品事業の売上高は228億32百万円（前年同期比5.4%の減収）、セグメント利益は43億17百万円（前年同期比13.0%の減益）と、いずれも前年を下回りました。

②建材事業

前期下期より続く災害復旧需要や危険な塀関連需要などを背景に、エクステリアの販売が好調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は147億31百万円（前年同期比4.2%の増収）、セグメント利益は25億75百万円（前年同期比12.7%の増益）と、いずれも前年を上回りました。

[参考情報]

【販売実績】

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	前年同期比(%)
化学品事業			
無機化成品 (百万円)	9,724	9,212	94.7
有機化成品 (百万円)	7,996	7,467	93.4
ファイン ケミカル (百万円)	6,423	6,153	95.8
小計 (百万円)	24,145	22,832	94.6
建材事業			
壁材 (百万円)	1,317	1,268	96.3
エクステリア (百万円)	12,820	13,462	105.0
小計 (百万円)	14,137	14,731	104.2
報告セグメント計 (百万円)	38,283	37,564	98.1
その他 (百万円)	636	596	93.7
合計 (百万円)	38,919	38,160	98.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

【海外売上高】

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	
	売上高 (百万円)	連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	売上高 (百万円)	連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)
アジア	6,036	15.5	5,644	14.8
北米	3,986	10.2	3,892	10.2
その他の地域	1,785	4.6	1,457	3.8
合計	11,807	30.3	10,994	28.8
連結売上高	38,919		38,160	

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

財政状態は、総資産は、前連結会計年度末比5億73百万円減少し、916億18百万円となりました。主な増加は、有価証券82億円、主な減少は、現金及び預金94億19百万円であります。

負債は、前連結会計年度末比21億18百万円減少し、197億2百万円となりました。主な減少は、支払手形及び買掛金15億97百万円、未払法人税等2億75百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末比15億45百万円増加し、719億16百万円となりました。主な増加は、利益剰余金26億82百万円、主な減少は、自己株式18億61百万円であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の75.5%から77.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想は、当初の計画(2019年4月25日発表)を変更しておりません。なお、主要な為替レートは、105円/米ドル、120円/ユーロと想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,641	17,221
受取手形及び売掛金	14,496	13,144
電子記録債権	2,149	1,949
有価証券	3,800	12,000
商品及び製品	6,158	6,954
仕掛品	47	46
原材料及び貯蔵品	3,233	3,113
その他	310	238
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	56,836	54,667
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,327	5,154
機械装置及び運搬具（純額）	4,506	3,778
土地	8,835	8,849
建設仮勘定	112	659
その他（純額）	734	604
有形固定資産合計	19,515	19,045
無形固定資産	176	129
投資その他の資産		
投資有価証券	14,390	16,786
繰延税金資産	647	398
その他	627	593
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	15,662	17,775
固定資産合計	35,355	36,950
資産合計	92,191	91,618

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,430	6,833
電子記録債務	439	342
短期借入金	1,930	1,930
1年内返済予定の長期借入金	914	708
未払法人税等	940	665
役員賞与引当金	66	53
その他	3,985	3,997
流動負債合計	16,707	14,530
固定負債		
長期借入金	680	774
繰延税金負債	23	33
再評価に係る繰延税金負債	1,111	1,111
役員退職慰労引当金	111	83
退職給付に係る負債	2,219	2,233
資産除去債務	378	378
株式給付引当金	—	17
その他	587	539
固定負債合計	5,113	5,172
負債合計	21,820	19,702
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,867	6,867
資本剰余金	5,740	5,815
利益剰余金	51,798	54,480
自己株式	△322	△2,183
株主資本合計	64,084	64,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,199	3,813
繰延ヘッジ損益	△4	△12
土地再評価差額金	2,533	2,533
為替換算調整勘定	△93	△103
退職給付に係る調整累計額	△137	△119
その他の包括利益累計額合計	5,498	6,111
非支配株主持分	788	824
純資産合計	70,370	71,916
負債純資産合計	92,191	91,618

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	38,919	38,160
売上原価	23,363	22,767
売上総利益	15,555	15,392
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	3,224	3,355
広告宣伝費	489	510
給料	1,681	1,675
役員賞与引当金繰入額	51	55
退職給付費用	138	132
役員退職慰労引当金繰入額	14	15
研究開発費	929	956
その他	3,108	3,127
販売費及び一般管理費合計	9,638	9,828
営業利益	5,917	5,564
営業外収益		
受取利息	8	14
受取配当金	483	418
為替差益	15	—
雑収入	58	31
営業外収益合計	565	463
営業外費用		
支払利息	11	11
売上割引	92	99
為替差損	—	120
たな卸資産廃棄損	40	25
雑損失	6	9
営業外費用合計	151	266
経常利益	6,331	5,760
特別利益		
補助金収入	—	44
固定資産売却益	3	1
特別利益合計	3	45
特別損失		
固定資産除却損	23	10
特別損失合計	23	10
税金等調整前四半期純利益	6,311	5,796
法人税等	1,938	1,730
四半期純利益	4,372	4,065
非支配株主に帰属する四半期純利益	36	37
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,336	4,027

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	4,372	4,065
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,880	616
繰延ヘッジ損益	△8	△8
為替換算調整勘定	33	△10
退職給付に係る調整額	16	17
その他の包括利益合計	△2,839	615
四半期包括利益	1,532	4,680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,519	4,640
非支配株主に係る四半期包括利益	13	39

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年11月26日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,372,100株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,786百万円増加しました。当該自己株式の取得等により、当第3四半期連結会計期間末における自己株式は2,183百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(役員向け株式交付信託)

当社は、2019年6月25日開催の第99回定時株主総会決議に基づき、当社取締役(社外取締役及び国内非居住者を除く。)及び執行役員等(以下総称して「取締役等」という。)に対する株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入しています。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託が当社株式を取得し、当社が各取締役等に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が信託を通じて各取締役等に対して交付されるという、株式報酬制度です。

また、取締役等が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しています。当第3四半期連結会計期間末の当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、166百万円、150千株です。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品事業	建材事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	24,145	14,137	38,283	636	38,919	—	38,919
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	3	4	190	194	△194	—
計	24,146	14,140	38,287	827	39,114	△194	38,919
セグメント利益	4,961	2,285	7,247	61	7,308	△1,391	5,917

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業及びフード事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,391百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,392百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化学品事業	建材事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	22,832	14,731	37,564	596	38,160	—	38,160
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	2	3	180	183	△183	—
計	22,833	14,734	37,567	776	38,344	△183	38,160
セグメント利益	4,317	2,575	6,893	56	6,950	△1,386	5,564

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム事業及びフード事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,386百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,386百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。